

塩谷郡市医師会だより

Contents

- 1 塩谷郡市医師会第69回定時総会報告
- 2 平成28年度第2回役員会報告, 行事予定
- 3 松村茂先生県シニアゴルフ大会初出場初V
- 4 在宅医療連携拠点整備促進事業 他

一般社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

塩谷郡市医師会第69回定時総会報告



平成28年4月16日(土)さくら市のホテル清水荘で第69回定時総会が開催された。総会に先立ち平成27年度第4回役員会が開かれ、平成27年度の事業報告、貸借対照表、損益計算書等が承認された。定時総会の前に栃木県医師連盟塩谷郡支部の総会が開催され、平成27年決算、平成28年予算について決議された。定時総会は定款により選出された池田議長、戸村副議長により議事が進められた。医師会員数103名中出席25名、委任状出席50名、計75名の出席で定足数充足が確認されたことより第69回定時総会の成立が告げられ、その後平成27年度に物故された先生に黙とうがささげられた。山田会長のあいさつの後、岡副会長より役員会、総務会、委員会活動などの会務報告があり、その後議事に入った。

(1)第1号議案「平成27年度塩谷郡市医師会事業報告並びに収支決算の承認を求める件」

(2)第2号議案「平成27年度塩谷郡市医師会貸借対照表及び損益計算書の承認を求める件」

(3)第3号議案「平成28年3月31日現在財産状況の報告について」

の3つの議案は関連した議案・報告であることから一括の審議が行われた。第1号議案の事業報告を山田会長が説明し、収支決算および第2号、第3号議案

について会計担当の阿久津理事が説明した。第1号議案については村井監事から監査報告があった。3つの議案について質疑の結果、賛成多数で承認された。

(4)第4号報告事項「平成28年度塩谷郡市医師会事業計画並びに収支予算の報告について」

山田会長から事業計画が、阿久津理事から収支予算の説明があった。

(5)第5号議案「会館建設準備積立金取崩の承認を求める件」

阿久津博美会計担当理事より、栃木県の委託を受け「在宅医療連携拠点整備促進事業」を行う事になり栃木県から10,000,000円の交付金が予定されているが、年度末入金の見込みであり、事業推進のため年度当初に会館建設準備積立金を10,000,000円取り崩す必要があると説明した。賛成多数で承認された。

(6)第6号議案「理事及び監事選挙」

議長より4月8日までの立候補届出者は、理事定数12名のところ12名、監事定数2名のところ2名の立候補であり無投票当選とする旨、報告があった。

(7)第6号議案「平成28年度、平成29年度理事及び監事の承認を求める件」

新理事12名と監事2名について個々に裁決を諮り賛成多数で承認された。

(8)第7号議案「平成28年度、平成29年度代表理事(会長)及び副代表理事(副会長)の承認を求める件」

新任された理事及び監事による役員会の結果、代表理事(会長)岡一雄、副代表理事(副会長)尾形新一郎、副代表理事(副会長)阿久津博美を互選した。その後総会にて上記全員異議無く、可決承認された。

(9)第8号議案 栃木県医師会代議員・予備代議員の承認を求める件

選任された新理事及び新監事による役員会において、栃木県医師会代議員及び予備代議員が互選され、総会で全員異議無く可決承認された。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	高橋 雄二 uppaship@fa2.so-net.ne.jp	条川 kumekawa.shioya@gmail.com 高橋 takahashi@e-shioya.jp

定時総会終了後に、隣室にて懇親会が開催された。尾形副会長の司会進行で歓談が行われた。その際平成28年度新職員として在宅医療連携拠点整備促進事業コーディネーターとして小林かよ子氏の紹介が行われた。



平成28年度第2回役員会報告

平成28年5月23日(月)午後7時から医師会事務室で開催された。

出席者：岡会長、尾形、阿久津副会長、佐藤会計担当理事、村井(成)、半田、仲嶋、植木、高橋、手塚、嶋尾理事、村井(信)、森島監事



- (1) 会長方針が示され、山田前医師会長の方針を引き継ぐ趣旨示された。
- (2) 平成28年度塩谷郡市医師会及び栃木県医師会の各種委員会委員長・委員の選任について各々選任された。
- (3) 平成28年度年間計画を右記の通り決定した。
- (4) 在宅医療連携拠点整備促進事業が始まるので会員は関連事業に積極参加することになった。
- (5) 栃木県医師連盟塩谷郡市支部役員が選任された。
- (6) その他
 - 1) 平成28年度栃木県・さくら市総合防災訓練が8月28日(日)にさくら市総合公園にて開催される。岡会長以下3名の医師が出席予定とされた。
 - 2) 医師会史の配布先について議論された。
 - 3) 日本准看護師連絡協議会「平成28年度正会員・

賛助会員募集」のお知らせの話があった。

4) 平成27年度認知症ケア医療介護連携体制構築事業について、冊子を発行したことが報告された。

平成28年度 郡市医師会行事予定

平成28年

- 4月16日(土) 第69回定時総会
医師連盟第15回通常総会
- 4月19日(火) 第1回研修委員会学術部会
- 4月25日(月) 第1回総務会
- 5月23日(月) 第2回役員会
- 5月30日(月) 第1回医療機能検討委員会
- 6月27日(月) 第2回医療機能検討委員会、
2市2町行政担当者合同会議
- 9月26日(月) 第2回総務会
- 10月17日(月) 第3回役員会
- 11月6日(日) 第12回市民公開講座(塩谷町)

平成29年

- 2月13日(月) 第3回総務会
- 3月13日(月) 第4回役員会
- 4月15日(土) 第70回定時総会
医師連盟第16回通常総会

注：委員会については6月30日時点で予定が決まっているのみを記載

平成28年度 学術講演会等予定表

平成28年

- 5月17日(火) 学校運動器検診
- 6月9日(木) 産業医ケースカンファレンス
- 6月21日(火) 下部消化管
- 7月14日(木) 産業医研修会
- 7月22日(火) ABC検診、納涼会
- 9月13日(火) 糖尿病
- 10月11日(火) 県立がんセンター
- 11月15日(火) 高血圧
- 12月6日(火) 疼痛

平成29年

- 1月20日(火) 脳梗塞認知症、新年会
- 日程未定 小児予防接種

注：6月30日時点での予定のため、日程やテーマなどを変更する場合があります。

学術講演会 I

「小児整形外科疾患の診断と治療～側弯症を中心に～」

日時：平成 28 年 5 月 17 日(火)

講師：自治医科大学 とちぎ子ども医療センター
小児整形外科 講師 渡邊 英明 先生



側弯症の発見は運動器検診の一番大切な目的です。Cobb 角が 20 度までは側弯状態といい、経過観察します。20 度以上を側弯症といい、装具療法や手術の検討をします。装具療法の効果は不確

かで、70%の医療機関ではやっていません。手術は可動域が激減するため、見映えはいいですが、生活に支障がでて、逆に ADL が悪化するため安易にはできません。早期発見しても有効な治療法が無く、親子への精神的フォローが一番重要な厄介な疾患です。(半田 教)

松村茂先生県シニアゴルフ大会初出場初V

松村茂先生(氏家病院 院長)が、6 月 24 日矢板市のアローエース GC で開催された、県シニアゴルフ選手権大会の決勝大会で 5 アンダー 67 で初出場初優勝の快挙を成し遂げました。

松村先生の優勝の所感をいただきました。

私がゴルフに出会ったのは、まだ中学生の頃だと記憶しています。父親である松村誠先代院長が、休日にゴルフ練習場に連れて行ってきて、初めてゴルフクラブを振りました。当時私はサッカー部に入り、毎日練習に励んでいたもので、体力には自信がありました。持ち前の運動センスの良さ(手前ミソですみません!) から空振りはないものの、真っ直ぐに飛ばない球にヤキモキしたことを思い出します。当時、ゴルフはおっさんのするスポーツだと思っており、大して興味を持つまでには至りませんでした。

時は経ち、大学入ってからゴルフ部に入ることとなりますが、その動機は極めて不純なものでした。ある先輩から、「大学教授の大半はゴルフを嗜んでおり、ゴルフ部員になればテストで点数悪くても進級させてくれるよ!」と、今思えば考えられない話を鵜呑みにしたの



でした。いざ入部すると、幸か不幸か、キャプテンが日大桜ヶ丘高校のゴルフ部出身の方で、かの湯原信光プロを下級生として教えた経験のあるバリバリのアスリートだったので。放課後になると、まずは 3 キロのランニング、続いてウサギ跳びを 50 メートル 10 往復、鉄パイプを左手だけで 100 回の素振りの後、ゴルフ練習場へ移動して 500 球の打ち込みを、ほぼ毎日させられました。「なんで大学に入って、こんなつらいことすんだろ…」と心の中でボヤキながら。

しかし、さすがにこれだけやれば上手になるもので、入部当初 110 程度だったスコアは、3 年生になる頃には 80 前後でラウンドできるようになりました。医師となってからは地元の栃木に戻り、父の所属していた塩谷郡市医師会に入会し、当時は毎月医師会で行われていたゴルフ例会に参加させて頂き、楽しくゴルフをしておりました。

そんな頃に当院の常勤医として迎え入れた先生が、大学ゴルフ部に入っていた経験を有しており、県内の競技ゴルフと一緒に出来ないかと誘われたことが、競技ゴルフにはまる、そもその始まりでした。

2002 年頃から県内の競技に出始めて、たまたまその年の知事杯争奪ゴルフ競技大会の決勝まで駒を進めることができました。その独特の雰囲気やピリピリとした緊張感に実力が全く出せずにスコアは散々でしたが、得も言われぬ充実感を感じたのを今でも覚えています。

あれから 14 年、可能な限り競技ゴルフに参加して経験値を積み重ね、独特の雰囲気にもやっと場慣れしてきて、ついに、先日行われた栃木県シニアゴルフ選手権決勝という大舞台で、生涯自己ベストスコアを初出場で出すことができ、優勝することとなりました。優勝してからは、塩谷郡市医師会の先生ばかりでなく、他の医師会の多くの先生方にも、沢山の祝福の電話やメールをいただき、また、関係各位や患者さん達からも祝福をいただき、本当にありがとうございました。

本格的にゴルフを始めて 35 年、よく続けてこれたなあと思います。まさに「継続は力なり」「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も・・・」ということでしょうか?しかし、本当は違います。私が競技ゴルフをすることに理解をしてくれている家族や病院の職員や先生方がいなければ続けることは出来ませんでした。改めて、この場を借りて御礼致します。

これからもゴルフ人生は続いていくと思いますが、なんといっても健康でなければ続けていくことは出来ません。健康に留意して県のゴルフ競技に複数回優勝できるように頑張りたいと思います。また、健康寿命を延ばして、自分の年齢がそれよりも少ないスコアでまわる「エージシュート」を達成することも、夢として持ち続けたいと思います。

医師会史『幕末・明治・大正期の医療～塩谷の地から「醫(い)」をさぐる～』が発刊されました！

塩谷郡市医師会医療史編纂委員会が、構想 10 年、制作に 5 年をかけ、塩谷の医師による医師のための医療史が発刊されました。発刊冊子 A 5 版、約 500 ページの超大作となっております。

この本には、「攻略マニュアル」『幕末・明治・大正期の医療／塩谷の地から「醫」をさぐる』をあじわうためにとり、○読みどころ、○面白く読める攻略方法なるものまで添付されており、読み応えのある本となっております。

内容は、以下の通り興味深い内容が続々出てきます。

- ・幕末期、種痘は「宇都宮藩」でも行われていた！
- ・コレラ大流行。漢方医の診療記録見つかる！
- ・スペイン風邪の脅威！矢板町の医師の後悔とは？
- ・娼妓の診断書に残された疑惑！
- ・結核の注射療法。その実験的療法の是非論争の結末は？
- ・多くの乳幼児が死亡した時代。その診療記録を読み解く。etc.

歴史好きの方はもとより、誰が読んで面白く思います。

是非ご一読下さい。



平成 28 年 4 月から「在宅医療連携拠点整備促進事業」が開始されました。

本事業は、国と県の委託補助事業として、医療的ケアが必要な高齢者等に対して、医療・介護が連携し効果的なサービスが提供できるよう、在宅医療連携拠点の整備を促進するために必要な支援を行うことにより、地域における包括的かつ継続的な在宅医療提供体制の構築に資することが目的とされております。

県内 10 の郡市医師会が、それぞれの地域に合った事業を展開する事になっていきます。

1. 事業期間と補助金

平成 28 年度および平成 29 年度の 2 年間各 1 年間に補助上限 10,000,000 円とされ、合わせて 20,000,000 円の補助事業となります。

2. 事業内容

本事業に関して、並行して栃木県の「在宅医療推進センター事業」と各市町の「在宅医療・介護連携事業」が進められ、それぞれが医師会と連携しながら実施されます。平成 30 年度には、医師会の事業は終了し、各市町主体の在宅医療・介護連携事業に移管される事になっていきます。医師会は、この 2 年間で在宅医療の基礎づくりが求められていると考えます。

3. 事業の進め方

当医師会の医療機能検討委員会（委員長 岡会長）が中心となり、4 月から採用した専任職員小林かよ子コーディネーターが実務を担当します。医療的ケアが必要な高齢者に対して、医療・介護が連携し効果的なサービスが提供できるよう、在宅医療連携拠点を整備しなければなりません。そのためには以下の①～⑦の活動を通して、地域における包括的かつ継続的な在宅医療サービスの提供体制を構築することが栃木県から提示されており、行政や歯科医師会、薬剤師会、訪問介護・介護関係者等と連携を密にして、この具現化に向けた取り組みをしていきます。

- ①地域の医療・福祉資源の把握及び活用
- ②多職種連携会議の開催
- ③研修の実施
- ④24 時間 365 日の在宅医療・介護提供体制の構築
- ⑤患者・家族や地域包括支援センター・ケアマネに対する支援や相談窓口
- ⑥効率的な情報共有のための取組
- ⑦地域住民への普及・啓発

今後、会員の皆様に何かとご協力をいただく事になりますので、よろしくお願い申し上げます。



7年ぶりに仕事復帰なので、戸惑うことばかり…
ご迷惑をお掛けしま～す!!

小林 かよ子 コーディネーター
保健師・看護師